

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/09/06号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

雇用統計予想外の悪化にゴールド上昇

SPDR Gold Shares円建価格

ゴールドとドルインデックス



前週は8月の米雇用統計の発表が金曜日になりました。NFP（非農業部門雇用者数）は市場予想の75万人増に対して発表された数字は23.5万人増という予想を大幅に下回る数字となり、ゴールドは発表直前の1814ドルから一時1833ドルまで上昇。FRBが最も重視している雇用が期待ほどの改善をしていないという数字にマーケットはドル売り、ゴールド買いで反応しました。しかしこのところのゴールドの天井である1830ドルを完全に超えて上げることができず、1820ドル台後半で一週間は終わりました。FRBのテーパリング開始の前提条件とされている完全に近い雇用という点から、年内とみられていたテーパリングの開始時期に疑問符が付き、緩和体制のしばらくの継続という憶測から、ゴールドが買い戻されたわけです。やはりデルタ株感染拡大の影響は大きくFRBが思い描く経済の回復には不安要素がまだ大きいということが再確認された数字だと言えるでしょう。

1830ドルを完全に抜けきらなかったことで、短期的にはゴールドが完全に上昇モードに入ったとは言いきれない状況ですが、7月の雇用統計の結果で起こった1800ドルから1685ドルへの急落分は完全に買い戻され、Comexの投資家ポジションも133トン減少したのが、フラッシュクラッシュ以来170トン増加、もはや売られた量以上に買われています。インドの輸入統計でも、8月のインドのゴールド輸入が2019年年初来の量となり117.6トン。フラッシュクラッシュによる価格下落のためのバーゲンハンティングであると思われます。7月には主にウズベキスタン、ブラジル、インド、トルコ、ロシア、カザフスタンそしてモンゴルの中央銀行が合計30トンのゴールドを購入しています。下値は支えられるでしょう。現在ゴールド価格のもっとも強力なドライバーはFRBの金融政策を巡っての投資家の動きですが、インドや中国に加え、最近ではドイツといった国々の個人投資家の現物の買い、そして中央銀行の買いがゴールドの価格を支える大きな要因となっています。こういった「長期投資家」の存在がともすれば忘れられがちですが、ゴールドの価格形成においては決して無視すべき存在ではありません。7月の雇用統計の結果ゴールドにはもはや未来がないと言った論調のアナリストが目立ちましたが、金融情勢だけを見てはこういった長期的な視野を持った投資家の存在をどうも軽視しがちなのです。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

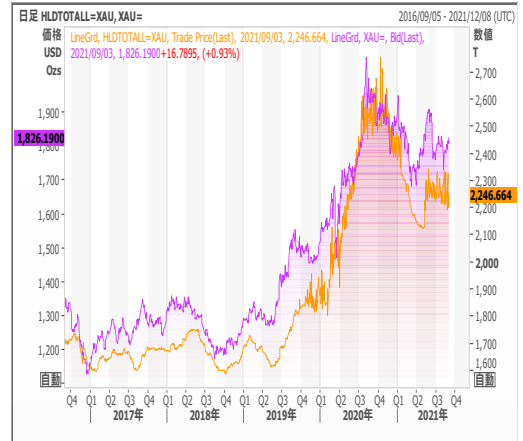
金ETF証拠金取引WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

ニクソンショックから50年

ちょうど50年前1971年8月15日、当時の米ニクソン大統領はゴールドと米ドルの交換の停止を発表しました。このニクソン大統領による夏休みの日曜日の唐突な発表は、1944年から続いたいわゆる第二次世界大戦後の国際経済体制である「ブレトンウッズ体制」の終わり告げる結果となり、それまで公定価格でドルとゴールドの交換を認めることによって維持されていた固定為替相場が終了、世界の通貨はゴールドに裏打ちされない「不換通貨」となり、ゴールド本位が終わり、同時に「変動相場制」が始まった日でした。この日からゴールドは1オンス35ドルという固定価格から、マーケットの需給により価格が決まる変動相場制に移行したのです。当時35ドルだったゴールドは現在1830ドル。50倍以上になっています。

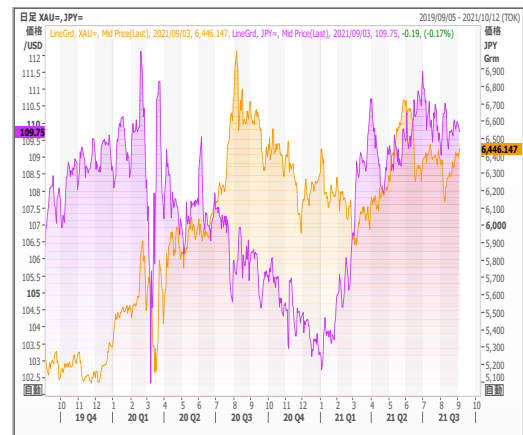
第二次大戦直後1944年7月1日から22日、米国ニューハンプシャー州のブレトンウッズで44カ国から集まった730人の代表が戦後の国際経済体制に関して討議できた合意が、ブレトンウッズ体制です。そこで設立された国際通貨基金（IMF）の名前を使って「IMF体制」とも呼ばれます。ブレトンウッズ体制の元では、米ドルが基軸通貨として認められ、1トロイオンス（31.10347…グラム）のゴールドは35米ドルと決められ、フランスフランや英国ポンド、スイスフランなどすべての通貨は米ドルとの間での交換レートが固定・保証され、実質的にゴールドとの交換が認められていたのです。しかしブレトンウッズ体制は完全な意味での「金本位制」ではありませんでした。それは「疑似金本位制」とでも呼ぶべきもので、肝心の米国でも1933年にルーズベルト大統領が、米国民のゴールド保有を法律で禁止し、銀行や個人はその保有ゴールドを米国に返還し、代わりに米ドルを受け取り、銀行はその残高をFRBに持つということになっており、ゴールドを決済として使えるのは国際的な中央銀行間の取引決済においてだけでした。ゴールドと米ドルを結びつけることによってそこに信頼を生み出し、米ドルを基軸通貨とすることが、当時の世界状況では唯一の各国が合意できる体制だったということだったのでしょう。しかしこれは、あくまで米国が各国の要望に応じて、ドルとゴールドを交換するという約束を守るという前提においてのみ有効な体制であり、この約束に米国が耐えきれなくなったのがちょうど50年前でした。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

